

『目標』

- ◆住み良いまちづくり
- ◆環境の浄化運動
- ◆あいさつと親切運動

《編集・発行》

西根地区社会福祉協議会

にしね福祉



元日の地震に 衝撃を受けて

西根地区社会福祉協議会

会長 小山三枝子

二〇二四年元日の夕方、突然携帯のアラームが鳴り、間もなく横揺れが始まりました。能登半島沖が震源地で、衝撃的な辰年の幕開けとなりました。二五〇名近くの亡くなられた方々、多くの被災された方々に、心よりお悔みとお見舞いを申し上げます。

テレビで、能登半島地震のニュースを見ながら、実際こういう災害が私たちの住む地域で起きたら、当社会福祉協議会として何をすべきか、深く考えさせられました。地域の福祉を担う立場として、高齢者の避難誘導は、避難場所での手伝いは…、課題は山積みです。

振り返れば、二〇二〇年の七月、寒河江市でも記録的な豪雨に見舞われ、大きな被害を受けました。日田地区や宝地区では、実際に一時避難をしています。初めてのことでいろいろな点で見直しが必要になり、防災に対する関心も高まりましたが、四年近くもたち、正直緊迫感はやや薄れていましたように思います。平時から、地区挙げて綿密に防災計画や避難計画を考えていく必要があると思いました。

この元日早々の地震で、改めて災害はいつ起こるか、どこにおきるか、わからないと痛感しました。この機に、もう一度災害に備えて、家族内で避難行動の確認、荷物の点検や食料の補足などをしてほしいと思います。さて、今年度の事業としては、高齢者の方を対象にした

映写会と天童市での一人暮らし高齢者ふれあいの集い、九月の「ふれあい天童」の訪問と佐藤繊維工場見学、二月の地域づくり研修会などを実施しました。多くの方にご参加をいただき、感謝申し上げます。

NPO法人「ふれあい天童」さんには、二回訪問させていただきました。代表の加藤由紀子さんからは、居場所づくり「のんびり茶の間」など、多くのことを学ばせていただきました。

○みんなで力を合わせ作り上げた手作りの居場所

○見えてきた、人と人とのつながりの必要性

○地域の協力が住み良いまちをつくる

加藤さんの体験から生まれた助け合いの形が、居心地の良い空間をつくり、住み慣れた地域で安心して暮らせる場所になっていくことを強く感じてきました。西根地区においても、普段の生活において、地域がつながることが大切です。その意味で映写会は大変好評を得ました。これからも、みんなが気軽に集まり、心を通わせられる居場所づくりを、当協議会としても模索していきたいと思えます。そのことが、災害時にも有効に働くのではないのでしょうか。

今年度も、地域の皆様方には、当協議会の事業運営に對しまして、温かいご理解とご協力を賜りました。心より厚くお礼申し上げます。



「ふれあい天童」にて

『憧れる』

西根小学校教頭 柏屋博之

「憧れるのをやめましょう。」

昨年三月、WBC決勝戦前に大谷翔平選手がチームメイトに呼びかけたこの言葉は今や名言となつていますが、待ちに待った大谷選手からのグロブが、年明け本校にもようやく届きました。

三学期の始業式後、五、六年生の野球少年のキャッチボールで「大谷グローブ」をお披露目すると、子どもたちは身を乗り出して見ていました。野球をやっている子も、やっていない子も、校長室前廊下に展示してある「大谷グローブ」を手にしては、目をキラキラ輝かせていました。休み時間は、ルールを決めて、キャッチボールを毎日楽しんでます。学校に来た保護者や地域の方々もまた、「大谷グローブ」を手にしたり、写真を撮ったりしては、皆さん笑顔で話をされていかれます。

まだまだ話題は尽きない「大谷グローブ」ですが、これだけ日本中いや世界中を魅了する大谷選手は、みんなの憧れの存在なのであるうと思えます。子どもの頃、プロ野球選手が夢だった私にとっては、もし今子どもだったら、間違いなく大谷選手になりたいと憧れていたことでしょう。その夢は叶いませんでしたが、大人になってからもあの仕事をしたい、あんな人になりたいなど、いつも憧れをもって過ごしてきたように思います。憧れているばかりでは超えることはできないのかもしれないですが、夢や希望をもつことの始まりは『憧れる』ことなのではないでしょうか。先日、「小・中学生の約20%は将来の夢がない」とか、将来なりたい職業をもつきっかけとなったことの一位は「テレビやインターネットなどの情報（約45%）」、二位は「体験したこと（約36%）」というデータを目にするがありました。西根の未来を担う子どもたちには大きな夢と希望をもってすくすくと成長していつて欲しい、そう誰しもが願っているはずですが、そのためには、学校、保護者、地域がさらに連携・協同し、様々な体験をさせていくことがとても大切であり、子どもたちが憧れを抱くきっかけをたくさん与えていくことが、私たち大人の使命なのかもしれません。



認定こども園寒河江にしねこども園

学校法人不動学園 理事長 鈴木普生

今年度は雪が降ってもあまり積もる事もなく、もうすぐ春が来るのではないかと思うような天気が続いています。雪は寒河江で生活をしていく上で切っても切れないものであり、子どもたちにとっても雪を活用した体験はとても重要なものです。雪の冷たさ、外の寒さ、雪玉などをつくる時の指先運動、雪穴を掘っている時の探求力、集中力、氷の形、氷が割れた時の音など、子どもたちにとって良い体験がたくさんあります。雪が少ないと残念な気持ちもありますが、例年の冬には出来なかった外あそびなどができるという良い面もあります。私は子どもたちが環境（物、人、空間）の中で元気に遊び、主体的に環境と関わる事で学んでいくものと考えています。コロナ禍の影響もあり、目の前にどのような環境がないということが今後起こり得ると考えて、代わりにどのような環境を用意するかを考えていく事が私たちの使命なのではないかと思っています。

さて、題名にもなっている認定こども園寒河江にしねこども園（以下にしねこども園）についてですが、現在も建築工事は進んでいるところです。令和六年度四月一日開園を目指して準備を進めていましたが、昨年末にこども園完成に一番必要とされる電線ケーブルが入荷できないという報告があり、建築工事が大幅に遅れることになりました。従って令和六年四月一日開園予定日が、令和七年四月一日まで延期となりました。それまでは現在の園舎を活用し、令和六年度一年間は「寒河江市立にしね保育所」を継続することとなります。にしねこども園、新しい園舎、園庭を楽しみされていた保護者・地域の皆様、なにより子どもたちには大変ご迷惑をおかけしますことお詫び申し上げます。また、西根小学校関係者の皆様におかれましては、工事中の駐車場等においても多大なご迷惑をお掛けいたしますこと重ねてお詫び申し上げます。また、工事中児童の登下校には十分な注意を払う所存でございますので、何卒ご理解とご了承賜りますようお願い申し上げます。

前述にもあったとおり、子どもたちにとっては過ごす環境が重要だと思っに遊んでもらえるよう努めます。また、我々一同保育の質向上に邁進してまいります。何卒よろしくお願いいたします。

二〇周年を越えて

寒河江市学童保育ねっこクラブ
指導員 高橋 弥生

日頃より、地域の皆様には当クラブの運営につきまして、ご理解とご協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。新型コロナウイルス感染症が今年度「五類」に変更され、その間、規模を縮小・中止していたものが、通常開催できるようになり、父母連絡会をはじめ、各行事を行うことができました。

特に十月開催の学童まつり（小学校内、多目的ホールにて）は、模擬店の出店や遊べるコーナーを設営し、多くの家族が参加し賑々しい催しとなりました。

コロナ禍だった令和三年度、二〇周年を迎えた頃には考えられないことです。当時、記念式典は断念するも、ささやかながら記念誌を刊行。子どもたちには記念品（紅白歌合戦で使用した『山形工房』製の名入り「けん玉」）を用意するのが精一杯で、盛大にお祝い出来ませんでした。大きな節目を迎えられたことに感慨深いものがありました。

た。一〇周年の頃は二つだったクラブも現在三つとなり、在籍児童数も百人に届く人数となりました。これは、地域皆様のご理解と市や小学校のご支援、保護者のご協力に他なりません。今後とも子どもたちが安心して過ごせる「生活の場、居場所」作りに務めたいと思いますので、末永くよろしくお願いたします。



一年を振り返って

民生委員児童委員 斎藤 智子

不安な気持ち一杯でこの仕事を引き受けてから、早一年が過ぎました。

前委員から、「民生委員・児童委員は、関係機関とのパイプ役で、一人で解決しようと思わなくてもいいよ。」と教えていただき、自分のやれる範囲で活動してきました。委員は、月に一度の定例会があり、制度等の学習は勿論、活動する上での悩み事、困り事など何んでも相談できる機会となり、心の支えとなりました。活動としては、月に一回程度一人暮らし高齢者の方を訪問していますが、元気で地域のスポーツに参加している方、デイサービスを利用している方など様々でした。そんな中、毎日のように近所の方が顔を見に寄ってくれる方もおり、こんな光景「昔ながらのお茶飲み」が隣近所の「支え合い」に繋がっていることを改めて痛感させられました。

最後に、地区町会長さんには、大変お世話になりました。また、地区の皆様にも暖かく見守っていただき感謝しております。これからも宜しくお願いたします。



思いやりと感謝が出来る 笑顔あふれる西根っ子

西根小学校PTA会長 犬飼 勝敏

日頃から西根小学校のPTA活動に対する皆様のご理解とご協力に心から感謝申し上げます。

令和五年度も、「思いやりと感謝が出来る笑顔あふれる西根っ子」をスローガンに掲げ、PTA活動を展開してまいりました。今年度は、前年に比べてコロナ前の活動に戻ることができ、各学年の委員からの協力を得て、一月末までには全学年で活動を実施することができました。この機会を通じて保護者同士の交流を深め、親子共に有意義な時間を過ごせたことを大変嬉しく思っております。

また、八月には西村山研修大会が朝日町で開催され、テーマ「育てよう、地域に誇りをもち未来を拓く子どもたち」のもと、基調講演「ウサビの中から気が付いた、地域の誇りの大切さ」が行われました。この講演を通じて、地域の方々のポテンシャルの高さを実感しました。研修会で得た知識をPTA活動で活かし、地域への貢献を考えていきたいと思っております。

最後に、私は今年度をもってPTA会長を退任します。二年間、皆様からのご理解とご協力を頂き、心より感謝しております。来年度からは新しい体制が始まりますが、引き続き子どもたちの明るい未来に向けて進めるよう、皆様の協力をお願い申し上げます。



横断幕に思いを込めて

西根地区社会福祉協議会

幹事 高橋

保

私は、西根小学校を昭和四〇年三月に卒業した。当時は、小学校と西根中学校が渡り廊下で繋がっており、卒業証書を持って中学校に入学した思い出がある。そして、昭和四十三年三月中学校を卒業、西根中学校最後の卒業生となった。何故ならば、中学校の統廃合により、陵東中学校が完成するまでの二年間、陵東中学校の西根校舎として使用されたためである。その跡地に、現在のにしね保育所が建てられた。

さて、小学校入口（道路側）に、基礎コンクリート製で高さ約10mの三角柱の構造物（写真1）があったのをご存じですか。構造物には「西根っこ 今日も一日 元気なあいさつ」「思いやり 学び合い たくましく」「親と子の対話で築く 明るいわが家」平成元年十月 西根福祉支会」と記されていた。三十五年経つ現在、経年により老朽化し、基礎部分に腐食、劣化等が見られ、倒壊する恐れから、寒河江にしねこども園の新築に伴い撤去された。

しかし、いざ撤去されると何か寂しさ・物足りなさを感じ、何か出来ないものか、当協議会で協議した結果、場所を取らない横断幕の作成構想が浮上した。その旨小学校に伝えたとところ快諾を得たので、標語「西根っこ 今日も一日 元気

なあいさつ」を選択し、昨年十月に寄贈（写真2）した。大人も子どももあいさつを交わして住みよい西根地区にしていきたいと願っている。

いろいろな思いや期待を込め、道路側金網フェンスに掲出したので、是非ご覧ください。

「西根っこ」ガンバレ!!



写真1



写真2

◆◆◆◆あとがき◆◆◆◆

「にしね福祉」第78号をお届けします。
 新年早々、能登半島の大地震・津波、空港での飛行機衝突事故の発生と波乱の幕開けとなり、また約4年にわたり世界中を席卷した新型コロナウイルス感染症が「5類」に移行するも未だ終息せず、早く平穏な生活に戻れるように願っています。今年度初めて75才以上の高齢者を対象とした「懐かしの映画上映会」を実施しました。参加された皆さんには楽しい時間を過ごしていただけたと思います。これからも感染等防止策を図りながら、事業を進めたいと考えておりますので、地区皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

(高橋)

「にしね福祉」編集委員

- 小山三枝子 (会長)
- 斎藤 利彦 (副会長)
- 高橋 保 (幹事)
- 丹野 和之 (会計)
- 芳賀 幸子 (民生委員・児童委員)
- 佐藤ひろ子 (民生委員・児童委員)
- 大沼亮一郎 (公民館長)
- 柏屋 博之 (西根小学校 教頭)